

第 15 回 日銀グランプリ決勝大会 審査員講評

審査員長 若田部 昌澄	(日本銀行副総裁)
審査員 橋本 圭一郎	(経済同友会副代表幹事・専務理事)
桜井 恵理子	(ダウ・東レ株式会社代表取締役会長・CEO)
原田 泰	(日本銀行政策委員会審議委員)
布野 幸利	(日本銀行政策委員会審議委員)

1. 総評

皆さん、活発なプレゼンテーションを有難うございました。

経済の様々な課題について、多様な発想で提言していただきました。統計データとその分析にとどまらず、現場や実務家への聞き取り調査やアンケート等を通じて、自ら発見した問題を考察するなど、研究に様々な工夫をされていたことが印象的でした。

また、本日のプレゼンテーションも、アイデアに富んだものでした。審査員から専門的かつ高度な質問を受けても、自分たちの考えをしっかりと伝え、さらに議論を深めていました。そうした皆さんの姿は大変頼もしく、嬉しく感じたところです。

2. 個別の論文について

それでは、個々の論文ごとに講評を述べたいと思います。

【最優秀賞】

東京経済大学

大学の大学生による小学生のための学童保育

東京経済大学チームは、相対的貧困による教育格差是正のため、大学とソーシャルビジネス法人による、大学施設や大学生を活用した学童保育事業というオリジナリティの高い提言をしました。

この提言では、学童保育事業に焦点をあて、現状分析を行ったうえで、大学が有する人的・物的資本の活用を提案しています。具体的な料金設定や多様な提供サービスも提案しているほか、学童の現場からの意見聴取も行っています。また、プレゼンテーションや質疑応答を的確に行ったことも含め、審査員から高い評価を得ました。

なお、①大学が近隣にない地域にはどう対応するのか、②事業の採算性・継続性等をどう確保するのか、③ソーシャルビジネス法人をいかに具体化するのか、について更に検討を進め、実効性を高めることが望まれます。

【優秀賞】

学習院大学

ポイントカード型教育バウチャー券で相対的貧困による教育機会喪失を解消する

学習院大学チームは、相対的貧困による教育格差の解消を企図して、奉仕活動等への参加によりポイントを貯めることで、地域の塾や音楽教室等で使用できるバウチャー券の提言をしました。

この提言は、こども自身が教育を受ける喜びや機会を持てるようにポイントカードの仕組みを活用しているほか、経済合理性を考慮してバウチャー券という形での提案をしています。専門家や実務現場からアドバイスを聴取して、実効性を高めようとしている点も評価できます。また、共感を呼ぶプレゼンテーションも印象に残りました。

なお、①経済的に余裕がある世帯のこどもの利用をどう考えるのか、②提携教育機関の参加インセンティブは十分なのか、③教育格差解消への効果はどの程度あるのか、について更に検討を進め、実効性を高めることを期待します。

【優秀賞】

東京理科大学

どこでも！マイタクシー

～高齢者ドライバーと地域の活性化：檜原村の研究～

東京理科大学チームは、高齢ドライバーによる交通事故の減少や地域活性化を企図した地域限定版の「マイタクシーシステム」を提言しました。

「マイタクシーシステム」は、海外で普及している“Uber”や“Glab”にヒントを得ながらも、それとは異なり、地域限定の1.5種免許という新しい免許制度を提案しています。また、①ドライバーは地域の准高齢者を想定、②車両は高齢者の免許返納で不要となった車両も活用、③駐車場は遊休地の活用を提案しており、様々な工夫がみられます。さらに、高齢化による問題を抱えた檜原村に実際に足を運び、インタビューやアンケートなどの実地調査を行っている点も評価できます。

なお、①マイタクシーの需給分析の前提となっている価格設定は妥当なのか、②地域における今後の人口構成変化による需要や供給の変化にどう対応するのか、③他地域への展開や応用をどう考えるのか、について更に検討を進め、実現可能性を高めていくことが望まれます。

【敢闘賞】

京都大学

キャッシュレス推進と幣制改革の必要性

～高額紙幣廃止のマイナス金利政策における効果の実証分析～

京都大学チームは、キャッシュレス社会の実現を企図した様々な制度を提言しました。

具体的には、教育機関、観光産業、そして小売分野でのキャッシュレス導入を義務付けることでキャッシュレス化を推進する一方で、電子決済事業者に対する規制と監督も整備するというものです。これらと同時に、2024年には1万円札を、2044年には5千円札を廃止することで、キャッシュレス化の一層の推進のほか、マネーロンダリング対策やマイナス金利政策に関する考察もありました。

なお、①現金志向が強い日本においてキャッシュレス化を進めるには何が必要か、②地方におけるキャッシュレス化をどう進展させるか、③規制・監督を具体的にどう設計するのか、について更に検討を進めていくことが望まれます。

【敢闘賞】

日本大学

S&S (Search fund And Social impact bond)

～サーチファンドで事業承継問題を食い止める！～

日本大学チームは、事業承継問題の解決を企図した一連のスキームを提言しました。これは、地方公共団体より事業承継問題解決を受託した地方銀行が経営者を募り、投資家を集め、事業承継が成功すると、地方公共団体からの報酬が地方銀行や投資家へ支払われるというスキームです。

この提言では、サーチファンドとソーシャル・インパクト・ボンドを組み合わせることで課題解決を図っており、各主体のインセンティブも検討しています。また、地域活性化や地方銀行の経営改善も視野に入れています。このほか、有識者へのインタビューを行い、スキームの実効性を考察していることも評価できます。

なお、①日本でサーチャーや投資家をどのように確保・育成するのか、②事業の成功可能性を高めるため、スキームを単純化して参加プレイヤーを減らせないか、について更に検討を進め、実効性を高めることが望まれます。

3. おわりに

今回の発表論文に関する講評は以上です。日本銀行では、来年度も日銀グランプリを開催する予定です。本日の決勝進出チームの皆さんのように、多くの学生の皆さんが、身近な生活や大学での勉学をきっかけに金融・経済への興味と関心を培い、自ら考え、仲間と議論しながら提言を作り上げることはとても重要です。こうしたことを通じて、これからも金融・経済面の課題に挑戦していただきたいと思います。

以 上